



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2019年1・2月
第326号

病院だより第326号 (2019年1・2月号)
発行者 昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
編集責任者 広報委員長 原田 浩史
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘1-30
Tel 045-971-1151

2019年を迎えて

藤が丘病院 病院長 高橋 寛

2019年、亥の年が明けました。

昨年の戌年の「戌」は草木の生命力が種の中に閉じ込められた状態を表しているとき、「植物が育っていき、花が咲き、実をつけ食べごろが過ぎた後、自分の身を落として本体の木だけは守る」という意味だそうです。今年の亥年は、準備期間であった戌年を経て前に突き進む年と言えるでしょう。



藤が丘病院の再整備については、昨年10月1日に横浜市、東急電鉄株式会社、学校法人昭和大学の三者で「藤が丘駅周辺の新たなまちづくりの推進に関する協定」が結ばれたことにより、再整備に向けた計画が本格化してきました。藤が丘病院としては地域住民や医師会に対して、より一層の協力体制を強化することが、再整備がスムーズに行われることに役立つと考えます。新病院の診療システムについては、これまでの藤が丘病院とは異なったシステムとなると思われませんが、各診療科はこれまで以上にそれぞれの診療能力を向上させることによって新しい病院での診療に備えて頂きたい。

藤が丘病院は横浜北部地域における中核病院としての機能が求められていますが、教育施設としての役割も大きなものです。より充実した実習・研修プログラムを構築することが重要と考え、より良い教育が出来るよう各診療科や各部署の教育プログラムの見直し・充実が必要です。研修医や学生・職員に対しては、モーニングセミナーなどを介して基礎教育、またそれぞれの診療科においては屋根瓦方式の教育体制や研修プログラムの充実により教育システムの確立を目指します。医学研究においては、大学の附属病院としての研究面におけるリーダーシップや最新医療の提供など、藤が丘病院に課せられた責務と考えます。藤が丘病院はC棟に研究室を備えています。研究室の充実を図るとともに大学の基礎医学教室との連携を強化することで研究室レベルの業績を促進したいと考えております。

昨年の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、藤が丘病院の更なる躍進のために一層のご支援をお願いいたします。本年が皆様にとってより良い年となることを祈念して新年の挨拶といたします。

2019年を迎えて

藤が丘リハビリテーション病院 病院長 市川博雄

2019年の亥年という新たな年を無事迎えるにあたり、病院のスタッフ、近隣の先生方ほか多くの方々のお力添えに感謝を申し上げます。



昭和大学藤が丘リハビリテーション病院はリハビリテーション科をはじめ、整形外科、内科、眼科といった診療科を擁し、入院病棟は一般病棟101床と回復期リハビリテーション病棟96床があり、後者は回復期リハビリテーション病棟1を届け出ております。脳血管障害、整形外科疾患に対するリハビリテーションのほか、内部障害リハビリテーション、スポーツ整形外科にも力を入れておりますが、心臓リハビリテーションにおいては横浜市の強化指定病院としての立場を頂き心臓リハビリテーション普及政策にも関わっていく予定でおります。リハビリテーション科の医師も増員するとともに、リハビリテーションセンターのセラピストも増員してまいりましたが、施設の成績・効果の指標となるリハビリ実績指数は40以上を維持しております。今後もさらに充実したより質の高いリハビリテーションの提供を目指してまいります。また、当院が要する眼科におきましては、白内障に対する多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術といった先進医療も取り入れることとなり、より充実した治療をめざしてまいりたいと思っております。

昭和大学藤が丘病院をはじめ、昭和大学附属の各急性期病院からリハビリテーション適応の患者さんを積極的に受け入れることにより、新入院患者数も増加しておりますが、本年もその連携をさらに充実していくとともに、昭和大学関係以外の医療施設からの受け入れ、連携も推進してまいりたいと思っております。今後とも至誠一貫の精神に基づいたより質の高い医療を提供できるよう努力するとともに、良き医療人の育成にも力を注いでまいりたいと思っております。

この新しい年が皆様にとりましてより実り多き年となりますよう心より祈念致しまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

多焦点眼内レンズ治療の開始

藤が丘リハビリテーション病院 眼科 西村 栄一

診療体制

眼科は昭和大学藤が丘リハビリテーション病院に移転し、今年で10年目を迎えます。

2019年2月現在、7名の医師と6名の視能訓練士で診療を行っております。年間約3,300例の手術を施行しており、特に白内障手術は2,120例と、県内でもトップクラスの数を誇っております。

特徴的な診療領域

現在行われている白内障手術(水晶体再建術)は、混濁した水晶体の濁りを乳化吸引したのち、水晶体の代わりとなる眼内レンズを挿入する手技が一般的です。これまでの白内障手術では単焦点眼内レンズが主に用いられてきましたが、医療技術の進歩により遠くと近くに焦点が合う“多焦点眼内レンズ”が導入されるようになりました。

多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術は2008年に先進医療として承認され、当科でも、昨年、先進医療の実施施設として厚生労働省の認可を受け、多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術を開始しております。当院での多焦点眼内レンズを用いた白内障手術は、入院を基本として術前術後の診察・検査・薬代、および入院費は保険適用となります。多焦点



多焦点眼内レンズ

眼内レンズの使用においては、患者さまのライフスタイル、ご希望の見え方をお伺いしたうえで、眼内レンズの種類、それぞれの長所・短所などについても十分ご説明させていただいた上で、眼内レンズおよび焦点距離を決定し、白内障手術を施行しております。

なお多焦点眼内レンズの白内障手術は、通常の白内障手術と全く同じ術式であり、挿入する眼内レンズが単焦点と多焦点と異なるだけで、その手術の安全性は、従来どおり大変安全なものとなっていますので、ご安心してうけていただける術式です。

当科は白内障手術、特に難症例の白内障手術に特化した施設ですが、糖尿病網膜症、網膜剥離などに対する硝子体手術も積極的に取り組んでおり、硝子

体手術のできる術者が常時3名おります。ぜひ硝子体手術適応患者さまがいらっしゃいましたら、ご紹介お願いいたします。



外来は月曜日から金曜日、手術は月曜から土曜まで、急患にも対応できる体制を整えておりますので、白内障、網膜硝子体だけでなく、緑内障、涙道疾患、眼瞼疾患など眼科領域全般にわたる対応が可能となっております。今後とも引き続き宜しくお願い申し上げます。

中学生が職場体験を行いました

1月22日(火)に横浜市立谷本中学校2年の生徒さん9名が藤が丘病院で看護師の仕事を経験しました。

白衣に着替え、緊張しながら看護師長と病棟へ向かい、看護師と一緒に患者さんの体拭きや手術室への



移動をお手伝いしました。働くことへの責任や大変さを実感でき、充実した体験ができたようです。

参加した生徒さんより、以下の感想をいただきました。

【渡辺さん】

・「将来医者として働きたいと思っています。今日の体験で患者さんとのコミュニケーションの取り方や、細かい業務の仕方などを学ぶことができました。これからはもっと勉強に励んでいこうと思います。」

【中村さん】

・「私の将来の夢は看護師なので、とても貴重な体験ができました。看護師の方はとても忙しく、休む暇もなくずっと走り回っていましたが、少しも疲れを見せずに患者さんに明るく話しかけていたのがとても印象に残りました。楽しくよい経験になりました。」

(昭和大学藤が丘病院 看護部 福山 麻衣子)

出前授業を行いました

横浜市立谷本中学校2年の生徒さんが職場体験をした1月22日(火)、藤が丘病院の教員が横浜市谷本中学校に出向き、1年生を対象に出前授業を行いました。今年度は救急医学科の林宗貴教授にご協力頂き、将来医療分野を志望する計46名の生徒さんに「医療人の仕事」に関する職業講話を行いました。病院で勤務する職種の説明やDMAT(横浜救急医療チーム)訓練、院内講習(心肺蘇生)等の説明を交えた授業に、生徒さんたちは真剣な眼差しで耳を傾けていました。授業の終わりにたくさんの感想を頂きました。



【生徒の感想】

- ・「医療人になるには実際に何を勉強し、どんな学校に進めばよいのか理解することができました。」
- ・「医師は苦しいこと以上にやりがいのある職業だと感じました。漠然と医療に関心を抱いていましたが、これから自分の職業についてしっかりと考えていきたいです。」

・「医療は患者さんとのコミュニケーションを円滑にとるなど、対人関係が非常に重要な職業だと知りました。医療を身近に感じる良い機会となりました。」

今回の出前授業は、これから生徒たちが職業選択をするにあたり自身と向き合うきっかけとなったのではないのでしょうか。藤が丘病院は今後も積極的に地域貢献活動を続けてまいります。

(藤が丘病院 管理課 村上 加織)

DMAT 訓練に参加

千葉県北西部を震源とし、訓練3日前に震度5強の前震、訓練1日前の午前6時に震度6強の本震が発生したとの想定のもと、関東ブロック(1都6県)のDMATが参集し、急性期の実動訓練や関係機関と連携した避難所の運営訓練を行う「平成30年度関東ブロックDMAT訓練」が平成30年12月8日(土)に実施され、上記訓練に藤が丘病院DMATが参加しました。



当院DMATは船橋市立医療センターに参集し、災害拠点病院である順天堂大学医学部附属浦安病院への支援に入るよう指示を受け、活動を実施しました。また、千葉県は湾岸部に位置する病院も多く、交通情報を収集することが重要でもありました。実際に湾岸部付近の道路を使用せずに病院支援に向かう訓練も取り入れていました。

災害は必ずやってきます。そのため、病院全体としてだけでなく、一人ひとりが日頃災害に対する心構えを持つことが重要だと考えられます。

(藤が丘病院 管理課 小泉 春樹)

藤が丘地域連携フォーラム開催

平成31年1月10日(木)当院にて第29回藤が丘地域連携フォーラムを開催いたしました。平成23年9月から始まりました藤が丘地域連携フォーラムも今回で28

藤が丘病院緩和ケア研修会開催

平成31年1月27日に藤が丘病院B棟6階講堂にて「藤が丘病院緩和ケア研修会」が開催されました。

緩和ケア研修会はがん等の診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアを理解し、知識や技術、態度を習得することを目的としています。本年度より開催指針が変更となり e-learning 研修が導入されたことにより、昨年度までの2日間の研修は1日となりました。

企画責任者の市川度教授(藤が丘病院腫瘍内科・緩和医療科)、佐々木康講師(藤が丘病院産婦人科)が中心となり、昭和大学病院緩和医療科 樋口比登実教授・横浜市北部病院緩和医療科 岡本健一郎教授をはじめ昭和大学関連の方々にもファシリテーターとしてご協力をいただき滞りなく終了いたしました。

今回の研修会は外部からの参加者3名を含む医師15名、コメディカル8名に参加頂き、職種・病院の垣根を越えて積極的に意見交換がなされました。参加者からは様々な職種の方の意見を聞くことができ勉強になったとの感想があたり有意義な研修となりました。



(藤が丘病院 管理課 石塚 美雪)

回目を迎え、地域医療機関の先生方や関係者の皆様 40 施設 58 名、昭和大学藤が丘病院関係者 109 名の合計 167 名の方々にご参加いただきました。

下記の2演題の講演において、活発な質疑がなされ、講演会後の懇親会では意見交換が賑やかに行われていました。ご参加いただきました皆様方には感謝を申し上げます。



なお、次回の地域連携フォーラムは、平成 31 年4月 11 日(木)脳神経内科、乳腺外科の講演を予定しておりますので、多数のご参加を心よりお待ちしております。

第 29 回藤が丘地域連携フォーラム講演会 次第

1. 「放射線治療～基礎から実践まで～」
藤が丘病院 放射線治療科 今井 敦
2. 「子どもの下部尿路症状について」
藤が丘病院 小児科 池田 裕一

(医療経営戦略課医療連携係 馬杉 朗子)

診療統計 2018年12月・2019年1月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2018年12月	2019年1月	2018年12月	2019年1月
外来患者数	27,841人 (1,210.5人)	27,178人 (1,181.7人)	4,508人 (196.0人)	4,390人 (190.9人)
入院患者数	16,474人 (514.8人)	15,945人 (514.4人)	5,456人 (179.0人)	5,085人 (164.0人)
紹介率	83.9%	84.7%	66.8%	64.7%
逆紹介率	74.1%	80.9%	89.2%	85.7%

《広報委員会委員》

原田 浩史	池田 裕一	佐々木 春明	市川 度	小岩 文彦	川手 信行
出川 美幸	角田 博子	佐藤 由紀	岩城 馨	長沼 美代子	下田 遥菜
岡部 圭吾	大塚 凌	和田 洋一	(順不同)		